

2011年6月30日

**質問：**

あなたの提唱する「第5のディシプリン（システム思考）」とは何かを、この世界的な相互依存の時代という背景とからめて話してもらえますか。

**ピーター・センゲ：**

私たちは、今日の世界的な相互依存がまるで新しいことのように言っていますが、私はこれまでも、私たちの行うすべてのことの背景に世界的な相互依存があると常に思ってきました。私が大学院生として初めてMITに来たとき、システム思考を学ぶことがその目的でした。システム思考が未来のカギを握るものに思えたからです。この途方もなく大きな網目状の相互関係をつくり出す必要がある、と。私が若いとき、1970年のことです。私たちはその相互関係を理解していないということが私にはひじょうにはっきりと見えていました。

このように、ずっと以前から私たちはこの網目状の相互依存関係に気づいていましたが、今、ますます人々の頭の中を占めるようになっていきます。それは、とても多くの崩壊やとても多くの悲惨なできごとが起こっているからです。それが明らかにほかとは関連性のないできごとであるときでさえ、ほとんどの場合、こういったできごとを引き起こすものがあちこちで進行していると思えてしまうかもしれません。

人々が自分たちの食べものがどこから来るのかを気にするなどということは、かつてはありませんでしたが、ここ2年間のアメリカを見てみるとどうでしょう。アメリカといえばおそらく、世界の中でも、食べるものに最も気を使わない国のひとつだと思うんです。ファースト・フードを大量に食べるし、食生活にあまり気を使わない傾向にあります。食文化というのをもたないのです。イタリア人とは違います。フランス人も違いますし、中国人や日本人とも違いますね。アメリカには食べものに関する儀礼みたいなものがあまりないです。アメリカ人のためのものさえないのです。

ここ2～3年の間に、食品をめぐる騒動が起こって、突如として人々は「私たちの食べものはどこから来るのだろうか？ どんな人たちがその食べものの安全を左右しているのだろうか？ どんな人たちの手を経て食べものが私たちのところに来るのだろうか」と心配するようになりました。つまり、私たちはこの途方もなく全体的な、相互に関連し合った世界に住んでいるのだという認識がこのように高まってきていると思うのです。

問題は、こういった認識のほとんどが恐怖という感情の中で起こっているということです。第5のディシプリンのような理論の目的は、ひじょうに単純に言えばある意味で、このような認識を取り上げて、希望や可能性という感情をもつように転換することだとも言えるかもしれません。私たちはこういったシステムをどのように機能させたいのでしょうか。私たちがこの網目状の相互関係を生み出したのです。私たちは、本当に自分たちに関係のあることを行ったり達成したりするために相互関係を生み出すことができるはずですが、しかしそれには認識の転換が必要です。なぜなら、たいていの場合、この相互関係はどれも、誰も気づいていないようでも大きくなっているからです。ほんの少しずつしか変わっていないから気づかないのです。したがって、いろいろな意味で、課題は、簡単に言うならば、気づくこと、そして思慮深くなることだと私は思います。